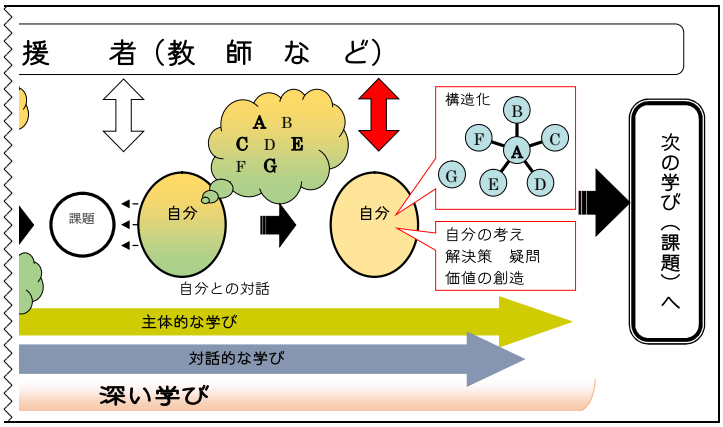
花緑輝

令和２年度
学校報６月号③
大仙市立
太田中学校

如何にして深い学びに迫るか？イカの解剖と1年生

ちょっと理屈っぽい話になります。「主体的・対話的で深い学び」を意識し，授業を良いものにしようと先生方が奮闘しています。「主体的」とか「対話的」という言葉はイメージしやすいのですが，「深い学び」というのが分かりにくい。そこで本校では次のように考えています。以下の図と合わせてご覧ください。

「生徒が最初にもっていたであろう（あるものに対する）認識が，授業中に友達の違う意見が入ってきたり，自分が説明したりすることによって，もう少し質の高い認識というか新しい概念に更新されていく」ようなイメージです。（諸説あります。）



１年生の理科の授業で「つまり，コレってこういうことだよね」と友達同士で確認したり，「これはどうなんですか？」と新たな課題を見付けたりする場面がしばしば見られると伺い参観してみました。「軟体動物のイカの観察」という授業です。「2 本長い足がある。違う働きをしているから。」「外とう膜の中に内臓…。」期待通りのつぶやきがたくさんありました。解剖に抵抗を感じず，サクサク作業をしていたことにも感心しました。

イカの値段 ＜ トレイの値段（by渋谷）

先生方から指導を受けるという学年集会のイメージを覆し，自主的に学年集会の企画・運営を始めた２年生

おジャマします。授業拝見！

音　楽　：　奈良　淳一先生

今年度最初の校内授業研究会は，奈良先生の音楽でした。スメタナさんの（一般的には）「モルダウ」と呼ばれている曲を聴きながら，タイトルは「（チェコ語の）プルタバ」と「モルダウ」のどっちがふさわしいかという課題に生徒が挑みます。

自分の感想や意見を語り合う→自分の考えを再構築→曲には様々な時代背景や作曲者の思いがあること認識する。→次からの鑑賞の学習にそうした見方や考え方を働かせる…。という授業でした。

３年生には語彙が豊富な生徒が多く，表現力も高い印象です。最後の〇〇さんの発表には思わず「ほぉ～」でした。研究主任として率先垂範の奈良先生に刺激を受け次回は渋谷先生の登場です。

☆鈴木酒造店様から消毒用のエタノール製品をいただきました。有効に活用させていただきます。

私と総体 ～あの頃君は若かった～

ゲスト：髙橋苑子先生（南外中出身　ソフトテニス）

Ｇ：総体の思い出を教えてください。

佐：二つ上の先輩が優勝，そして一つ上の先輩も優勝だったので，私たちの代にはスリーピート（三連覇）がかかっていました。その目標に向かって，毎日厳しい練習を繰り返していましたが，「私たちも優勝！」と，仲間が一丸となっていたと思います。当時も強豪チームがあり，練習試合では勝ったり負けたりでしたが，本番の大会では見事優勝することができました。

閉会式で，三連覇を達成したことで監督の先生が特別に表彰されているのを見て，とっても誇らしかった記憶があります。

＊３（three）＋繰り返す（repeat）⇒スリーピート